

今回は、宮崎県で唯一人の認定医として歯科医院で口腔顔面痛診療を行っている山崎英子先生と、同僚の山本慧子先生に、当会初のWEBセミナーについてご報告いただきました。

## 口腔顔面痛ベーシックWEBセミナー2020を受講して

宮崎市 山崎歯科クリニック 山崎英子 山本慧子

日本口腔顔面痛学会の研修施設は関東や都市部に集中しており、九州ではわずか4施設6診療科のみである。さらに私達の診療している宮崎県には歯学部や歯科大学がなく口腔顔面痛の診療をしている歯科医師も殆どいないため、宮崎県では認定医の山崎英子が他院からの紹介や、HPなどをみて直接来院された患者を当クリニックで診療しているのが現状である。来院患者の動向としては県内の咬合専門クリニックや口腔外科を回って来られる患者も多く、病悩期間が数年という患者も珍しくない。当然その後の治療期間も長期化している。このような現状を踏まえ、当院の非常勤歯科医師には口腔顔面痛についての知識や病態、現状について説明し、私以外にも2名が口腔顔面痛学会に入会している。その中で今回、非常勤の山本慧子先生をサポートしながら、口腔顔面痛ベーシックWEBセミナーを、2020年7月12日から7月27日まで一緒に受講したのでその概要を報告する。山本先生は1歳と4歳のお子さんの子育て中で、主に午前中週に4日勤務しているため受講は別々に行い、勤務時間に受講内容のサポートを行った。各セッションの受講後に振り返りの時間をとり、過去に使用した文献や本、勉強したノートなどを用いてサポートをしながら、自身も知識の再確認をすることができた。以下、山本先生に受講の感想などを執筆していただいた。(山崎)

(山本)

### 【1. 口腔顔面痛の概念と医療面接】



第1セッションは、野間昇先生による口腔顔面痛の概念と痛みの医療面接について15分2コマの講義であった。1コマ目は痛みの種類、歯痛を引き起こす原因についての講義で学会に入会したばかりの私にもとても理解しやすく、漠然としていた頭の中を整理することができた。2コマ目は医療面接についての講義で、痛みの構造化問診を元に、痛みの質・部位・持続時間・随伴症状などを確認し、必要な検査を行うことで診断が進んでいくという事を学んだ。両講義とも口腔顔面痛を学び始めるうえでとても良い内容だった。

### 【2. 必須の痛みのメカニズムと薬理作用】



第2セッションは、篠田雅路先生による痛みのメカニズムと薬理作用についての講義であった。口腔顔面痛の治療において薬物療法は必須であるが、その薬理作用や特徴について把握することが非常に大切である事を学んだ。学生時代に習ったはずだが曖昧になっていたことも多く、再度復習することができ、改めてその理解の重要性を感じた。また下行性疼痛抑制系などは殆ど知らなかったのもとても勉強になった。

### 【3. 痛みのメカニズムに基づいた薬物療法の実際】



第3セッションは、桑島梓先生による薬物療法の実際についての講義であった。筋筋膜性疼痛、顎関節炎、典型的三叉神経痛、神経障害性疼痛についてそれぞれ臨床例を用い、第1セッションの講義にあった疼痛構造化問診表を使用した診断法や検査、薬物療法、理学療法、副作用などについてそれぞれ詳しい説明が行われた。これにより、診断から治療までの流れを把握することができた。

### 【4. 咀嚼筋由来の歯痛とは】



第4セッションは、原節宏先生による筋筋膜性疼痛のメカニズム、効果的な検査方法、トリガーポイント、主な治療法についての講義であった。このセッションでは、咀嚼筋由来の歯痛の種類、そのメカニズム、治療法の種類などについて詳しい説明があった。痛みを生じるメカニズムについては、収束・投射説なのか、筋膜性の伝達なのかまたはその両方なのか未だ解明されていないことも多いということであったが、それもまた興味をそそられる問題であった。今後どのような研究がなされ解明されていくのか楽しみにしている。

### 【5. 歯科で生じる神経障害性疼痛】



第5セッションは、岡田明子先生による神経障害性疼痛についての講義であった。ここでは4つの症例を挙げて神経障害性疼痛についての説明があった。神経障害性疼痛の診断では発作性か持続性か、急性期か慢性期か、交感神経依存型か非依存型かどうかの鑑別診断が重要である。治療については、原因療法であるのは三叉神経痛の手術のみであり、その他は対症療法であること、また症状や神経損傷の度合いに応じて対応が変わってくることを学んだ。治療薬に対する有害作用についても説明があり、薬剤を処方するにあたり、有害作用の確認や検査、対応についてもしっかり準備することが必要だと感じた。

### 【6. 口腔顔面痛における認知行動療法】



第6セッションは、渡邊友希先生による口腔顔面痛における認知行動療法について講義であった。正直なところ、この分野は私にとって一番未知の分野であった。しかしこの講義では図式を用いて流れが分かりやすく説明されており、私のような初心者でも理解しやすい内容となっていた。口腔顔面痛専門医に限らず、全ての歯科医師、医療従事者にとって患者とのコミュニケーション技術は今後ますます重要かつ必須事項となっていく。その導入として今回の慢性疼痛患者の行動、認知、身体、感情の4つを把握し介入、心理教育をしていくという方法はとても新鮮に感じ、勉強にもなった。今後私も多くの経験を積み習得したい。

### 【7. 歯科で役立つ頭痛の知識】



第7セッションは、白田頌先生による歯科で役立つ頭痛の知識についての講義であった。ここでは、数多い頭痛分類の中から歯科領域に関係があり、最も有病率の高い緊張型頭痛、顎関節症に起因する頭痛、片頭痛、群発頭痛が取り上げられた。頭痛と言ってもその領域は顔面に近接しているため歯科的症状としても現れることも多い。そのため私たち歯科医師もその特徴を知った上でこれらに取り組んでいきたい。

## 【8. 診断に基づく臨床診断推論, 臨床診断推論デモと症例体験】



最後の第 8 セッションは、村岡渡先生による臨床診断推論の説明とデモンストレーションであった。臨床診断推論は経験が浅い歯科医師や専門領域外の症例でも 1~5 までのステップに沿って進めることで最終診断を出せる理論的な方法のため、私もぜひ実践したいと思った。小テストでは症例が提示され、実際に臨床診断推論を用いて診断していくのだが、

症状や病名の知識がほとんどない私はとても苦慮した。しかし、実際に経験することで流れを掴むことができ、また自分の知識を増やすという課題も見えてとても有意義であった。

## 【口腔顔面痛 WEB ベーシックセミナーを受講して】(山本)

今回このような形でニュースレターの執筆のお手伝いをさせていただき大変光栄に思っております。私の勤務先である山崎歯科クリニックの副院長山崎英子先生は宮崎県内で唯一口腔顔面痛を専門にされており、そのような先生の前で日々様々な研鑽を積み重ねて頂いております。今回受講したオンラインでのベーシックセミナーについて、私のような育児中の歯科医師目線の感想も聞きたいとおっしゃってください、ニュースレター執筆のお手伝いをさせていただくこととなりました。私にとっては初めてのセミナー受講、そして今回は新型コロナウイルスの影響により初めてのオンラインでの開催でした。私は現在二児の幼子の子育てをしておりますので、ウェブでなければ受講できなかったため、このような状況に感謝という言葉は不適切かもしれませんが、ありがたく受講させていただきました。受講期間が 16 日間と長期でありましたので、家事育児の合間に時間を見つけて受講することができ、とても意欲的に取り組むことができました。このようなオンラインという形は、まとまった時間が取りにくい私のような育児中の者だけではなく、地方在住で時間的・距離的に都市部での受講が困難な方にとっても魅力的な方法だと思います。もちろんセミナーや学会会場という雰囲気味わうことも醍醐味のひとつであると思いますので、新型コロナが収束した後も、可能であれば会場開催に加えてオンライン開催という選択肢も残していただけたらありがたいと思います。

最後になりましたが、口腔顔面痛について右も左も分からないような私に日々根気強く指導していただき、セミナー中はお忙しい合間を縫って小テストなど分からない箇所を優しく教えてくださった山崎英子先生に心より感謝申し上げます。

## 【口腔顔面痛 WEB ベーシックセミナーを開催して】

ベーシックセミナー

野間昇委員長

渡邊友希副委員長

口腔顔面痛学会セミナー企画運営委員会では、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、参加者および関係者の健康・安全面を第一に考慮し、口腔顔面痛ベーシックセミナーの今年度の開催を WEB セミナーに変更致しました。初の WEB セミナーとなりましたが、多数 (128 名) の先生方に受講していただきました。WEB 期間中、会場開催では質問できないような難症例、日常臨床で困っている症例などオンライン掲示板を通じて質疑応答が行われ、大盛況であったように感じました。受講者アンケートではセミナーの内容、および参加しやすい点に高評価をいただきました。次年度も WEB セミナー開催も考慮に入れ、より充実したセミナーとなるよう努めていきたいと思っております。

なお、今回の WEB セミナーは、口腔顔面痛学会 IASP 教育システム開発プロジェクトチームの技術サポートを受けて運営いたしました。最後になりましたが、明海大学チームの皆様にはお忙しい時期に e-learning システム運営を行っていただき有難うございました。

## 【山本慧子（やまもと さとこ）先生のプロフィール】



<略歴>

2011年 九州歯科大学 卒業

2011~2013年 宮崎大学 歯科口腔外科

2019年 山崎歯科クリニック

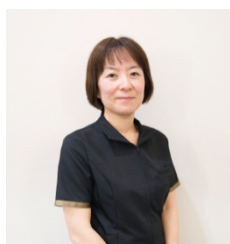
所属学会：日本口腔顔面痛学会

<趣味・特技>

アウトドア，特に目的もなく外に出ることが好きです。

## 【山崎英子（やまさき ひでこ）先生のプロフィール】

<略歴>



1997年 長崎大学 卒業

1997~2009年 宮崎大学 歯科口腔外科

1999~2009年 藤元総合病院 歯科口腔外科部長

2010年 山崎歯科クリニック 副院長

所属学会：日本口腔顔面痛学会，日本口腔外科学会

<趣味・特技> テニスと筋トレを頑張っています。最近お会いできませんが研修を通じて口腔顔面痛学

会の先生方と時々お会いできるのが楽しみです

## 付記：広報部より，山崎先生に，開業医としてどのような口腔顔面痛診療をしておられるのかお尋ねしてみました。

宮崎県宮崎市の南，木花地区で，主人と山崎歯科クリニックを開業しております。木花地区は宮崎市街地から車で約30分，宮崎空港からは15分，海も山も溪谷も近くにある自然豊かな所で近くに宮崎大学，医学部付属病院があります。ユニット7台，スタッフ12名，院長と私，代診の歯科医師で診療しています。一般歯科治療は主に院長，小児や外科領域，OFPは私と外科出身の勤務医が担当しています。

OFP患者の診療は，初診時や必要な場合はユニットを使い，カウンセリングや処方のみの際はカウンセリングルームを使っています。初診は60分，再診は30分で予約をとります。現在はコロナ禍なので診察券アプリを用いたりリモート診療も併用しています。

現在継続して診療している患者は13名で，特発性歯痛の患者が9名と最も多く，アミトリプチリンで治療を行っています。その他は，三叉神経痛の患者は1名，BMSの患者が3名です。初診に必要な脳のMRI検査などは患者のかかりつけの脳神経外科で行ってもらいます。感覚検査，採血，パノラマX線，CBCTは自院で行います。鼻副鼻腔炎の疑いがある場合はCBCTで確認し，近耳鼻科を紹介します。特発性歯痛患者の中には，心療内科通院中の患者が2名いますが，主治医と連携してアミノトリプチンのみ当院で処方しています。宮崎では歯科医院でもアミトリプチリンが21日分処方できます。また，必要な場合は堀越先生のセミナーで学んだ簡単な認知行動療法も行います。診断がつかないために依頼を受けることも多く，その場合は，歯原性疼痛やブラキシズムによる歯根膜炎，筋筋膜性疼痛などと診断して，紹介医にお返しする場合があります。

来院経路は，歯科医師会員の先生からの紹介が月に1名弱あります。以前は殆どありませんでしたが，宮崎県歯科医師会学術講演会で和嶋先生に講演していただいてからOFPを理解してくれる開業医が増えたようです。また，HPやインスタグラムなどをみて直接来られる患者もいます。

宮崎大学口腔外科の医員も勤務しているので、口腔外科に関しての連携は取れていますが、OFP に関しては興味を持つ先生がおらず依頼することはできません。

私は、医局にいた時期に一人で OFP の勉強を続け、本学会の先生方に資料をいただいて ABOP（米国口腔学会専門医認定試験）も受験しました。英語の壁を超えられず合格できませんでしたが、大変勉強になりました。地方で一人、このような診療をすることは心配な点もありますが、常に本学会の先生方にメールなどで相談に乗っていただける環境にあります。特に診断が難しい場合は専門医のいる関東の病院を紹介しています。

当院受診患者の来院経路は、多くの場合、まず一般歯科を 2-3 件、口腔外科、咬合の専門医を受診してきます。心身症と思われ、歯科医師に叱責されたり、来院禁止になった患者も少なくありません。地方でも OFP の考え方が全ての歯科医師にもある程度理解されること、認定医や専門医の先生が何名か生まれることを望みます。

私は以前より OFP に興味があり、勉強もライフワークと思っていますが、開業医の立場から言えばこの領域は正直なかなか採算をとれる分野ではなく、勉強したいと思ってくれる先生が少ないです。私事ですが、12 年ほど前までは大学に所属していましたが、出向している間は在籍期間がカウントされないため、口腔外科学会の認定医を取得することができませんでした。幸い本学会の認定医は取得できましたが、口腔外科学会認定医などの資格を持ちませんので専門医取得は諦めております。このような状況ではありますが、現在は共著者の山本先生も認定医を目指しています。実際の診療をみることで興味を持ってくれたのだと思います。勉強すれば大学在籍期間にかかわらず認定医が取れ、患者に貢献できるようなシステムがあれば、さらに全国的に認定医専門医が増えると思います。

また専門医の先生方の地方講演があると有難いです。私が OFP を始めたきっかけも 20 年前受講した鹿児島での和嶋浩一先生の TMD セミナーでしたし、その後も宮崎県で学術講演をして下さったことで、開業歯科医から自院への紹介患者も増えました。

今後も宮崎から若い先生たちと OFP の勉強や治療を頑張っていきたいと思いますので WEB セミナーなどは本当に助かります。私共の診療形態が会員の皆様の参考になれば幸いです。

よろしければ HP もごらんください。

<http://www.yamasakidc.jp/about/facility.html>

(宮崎県宮崎市熊野 481-1 山崎歯科クリニック 0985-58-8020)



スタッフ集合写真



診療室



カウンセリングルーム

---

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: [jsop-service@onebridge.co.jp](mailto:jsop-service@onebridge.co.jp)